



BCI 認定資格取得者のための受験要綱

2008 年 2 月改訂

Business Continuity Institute, Japan

目次

1. Business Continuity Institute のビジョン.....	3
2. Business Continuity Institute について.....	3
3. BCI 認定資格.....	3
4. 認定が重要である理由.....	3
5. BCI 認定資格試験の開発.....	4
6. BCI 認定資格試験合格レベル.....	4
7. BCI 認定プロフェッショナル会員資格取得のために必要とされる知識および経験	4
8. BCI 認定資格試験の受験要件.....	6
9. 試験会場.....	6
10. 代理受験.....	6
11. 試験会場設備に関する特別な配慮.....	7
12. 受験票.....	7
13. 試験の予約.....	7
14. 試験予約の変更およびキャンセルに関するポリシー.....	7
15. 欠席した場合の受験料.....	7
16. 身分証明の要件.....	7
17. 試験についての説明.....	7
18. 試験の概要.....	7
19. 教育および訓練.....	8
20. 受験の準備.....	8
21. 受験 - 試験当日.....	8
22. 質問、コメント、終了後のアンケート.....	9
23. 受験者の不正行為.....	9
24. 試験後 - スコアレポート.....	9
25. 試験後 - BCI 認定プロフェッショナル会員資格のご案内.....	9
26. 試験後 - 資格要件適合監査.....	9
27. BCI 認定資格の意味するもの.....	10
28. 推奨合格スコアの決定.....	10
29. 再受験に関するポリシー.....	10
30. スコアの無効.....	11
31. BCI 認定資格の取り消し.....	11
32. 倫理規約.....	11
33. 試験への抗議に関するポリシー.....	12
34. 参考書リスト.....	13
35. Business Continuity Management Life Cycle と重要なスキル.....	14

1. Business Continuity Institute のビジョン

事業継続マネジメント（BCM）の手法と知識を促進すること。

2. Business Continuity Institute について

Business Continuity Institute（BCI）は、1994年に、Business Continuity（事業継続）の実務家同士が相互に指導と支援を行うために設立されました。

BCIでは、会員が一定した高い水準でBCMを実施・運用できる技量を有していることを示すため、国際的に認められたBCI認定プロフェッショナル会員資格としてのステータスを与えています。

BCIには、85か国以上から4000人を超える会員が所属しています。

BCIは、事業継続マネジメントとそのサービスを提供し維持するために、最高水準の専門能力と商業倫理を促進するという幅広い役割を担っています。

3. BCI 認定資格

2008年に、事業継続マネジメントを習得しその技量を有する既存の会員資格は上位のBCI認定プロフェッショナル会員資格とその位置づけを新しくしました。

BCIの新しい資格であるCBCI（Certified by the Business Continuity Institute）が発表され成功裡に当該資格制度が導入されました。CBCIの資格取得者は、資格更新日までの3年間、BCI認定資格者として登録（BCI's competency register）されます。[※]

※注：登録リストへの掲示には年間掲載料のお支払が必要となります。

実務あるいは訓練を通じ、事業継続に関連する十分な実務経験を備えたCBCI認定資格保持者は、BCI認定プロフェッショナル会員資格の取得を申請することができます。

4. 認定が重要である理由

BCI認定プロフェッショナル会員資格である、FBCI（Fellow）、MBCI（Member）、SBCI（Specialist）並びに ABCI（Associate）は、BCMを一定した高水準で実施する技量があると認定された専門家に与えられる、国際的に認められたステータスです。

2007年に、BCIは試験制度を導入しました。BCI認定プロフェッショナル会員資格を新たに取得しようとする申請者は、BCIのGood Practice Guideline（GPG）に従った主要なBCMの原理を理解していることを明らかにするため、CBCIの資格取得が必要となります。

上級資格であるMember資格（MBCI）を申請しようとするものは、指定された書式をあわせて提出し、自身の有する知識と実務的な能力を示さなければなりません。当該申請は、別途BCI Membership Councilによって選任された評定委員により評定されます。

5. BCI 認定資格試験の開発

BCI では、BCI 認定の開発と導入を成功裡に実施するため、多くのプロジェクトで共同作業を行ってきた 2 つのパートナー、Schroeder Measurement Technologies (SMT) および IT Professional Group (ITPG) と提携しています。

試験は、BCI の代理機関として Schroeder Measurement Technologies (SMT) によって運営され、SMT が受験者の都合に応じた試験の時間と開催場所を提供します。SMT は世界各地に試験会場を設置しています。

6. BCI 認定資格試験合格レベル

二つの異なる合格レベルが設定されています。

「Pass」: 以下の対象者に対し設定されます。

- ・ CBCI 資格取得者
- ・ BCI 認定プロフェッショナル会員資格 AMBCI 申請者
- ・ BCI 認定プロフェッショナル会員資格 SBCI 申請者

「Pass with Merit」 以下の対象者に対し設定されます。

- ・ BCI 認定プロフェッショナル会員資格 MBCI 申請者

試験に合格する以外に、BCI 認定プロフェッショナル会員資格を取得しようとするものは全員 BCM における実務経験を証明するものの提出が必要となります。

MBCI を申請し「Pass with Merit」を通知されたにもかかわらず必要とされる実務経験（すなわち 3 年間）を満たしていないものは、AMBCI の資格付与と、必要とされる十分な実務経験を充足したときに「Pass with Merit」とともに MBCI の資格に移行できるための“bank”のグレードが付与されます。

※合格基準等については、後記「28. 推奨合格スコアの決定」を参照ください。

7. BCI 認定プロフェッショナル会員資格取得のために必要とされる知識および経験

BCI 認定資格試験に見事合格し、さらに BCI 認定プロフェッショナル会員資格を取得しようとするものは、以下の実務経験が必要とされます。

Associate Member of the Business Continuity Institute (AMBCI)

AMBCI の会員資格申請者は、少なくとも 1 年以上の常勤での BCM 実務経験を保有し、かつ BCI 認定資格試験の合格レベルが「Pass」であることが必要です。

Specialist Member of the Business Continuity Institute (SBCI)

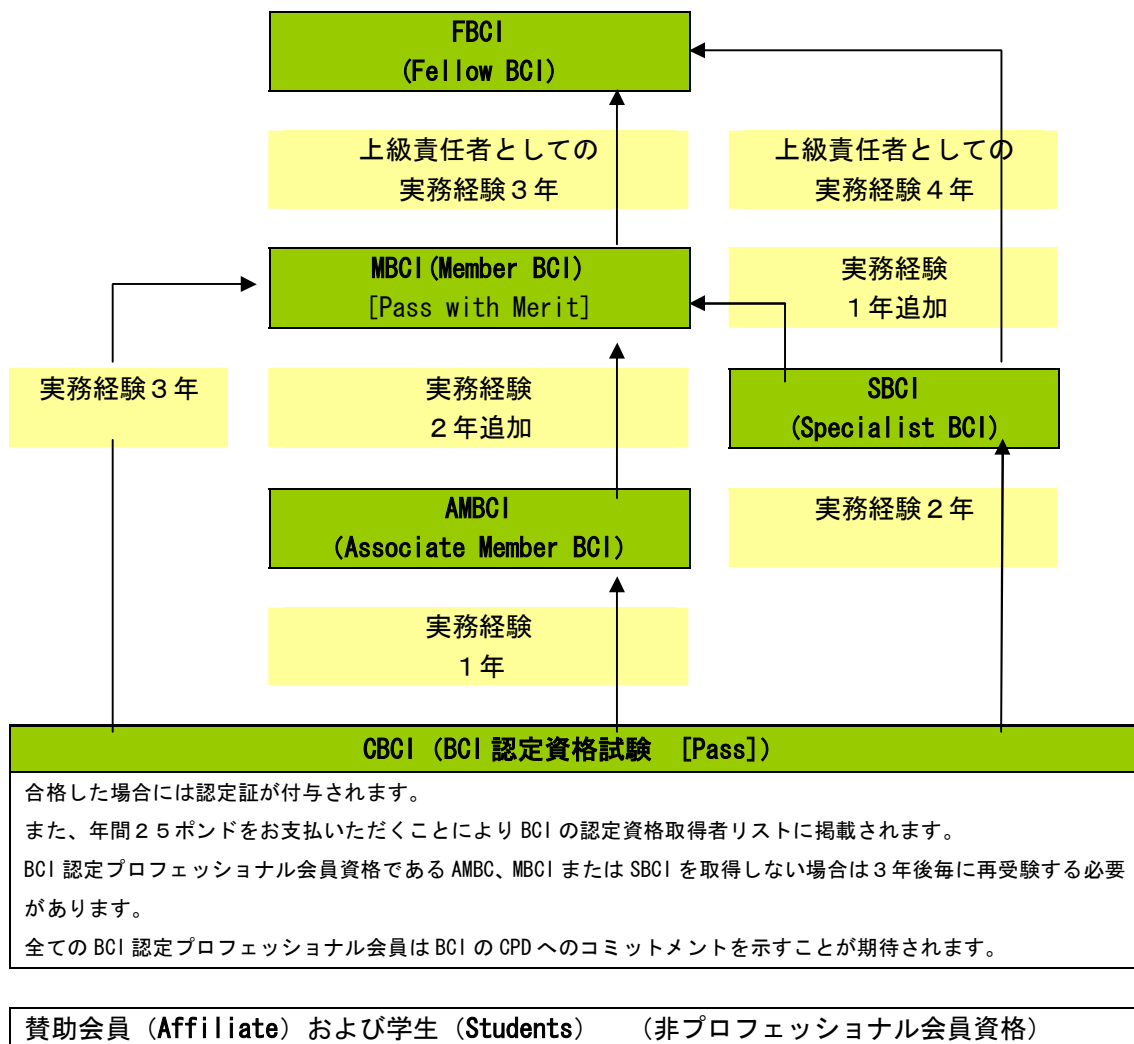
SBCI の会員資格申請者は、少なくとも 2 年以上の常勤での BCM 実務経験または BCM 関連の教育訓練を経験し、かつ BCI 認定資格試験の合格レベルが「Pass」であることが必要です。

これらの条件のいずれかを満たすことができない SBCI の会員資格申請者には、該当すれば AMBCI が与えられます。

Member of the Business Continuity Institute (MBCI)

MBCI の会員資格申請者は、少なくとも3年以上の常勤での事業継続実務家としての経験を保有していることが必要です。MBCI の会員資格申請者は、BCI 認定資格試験の合格レベルが「Pass with Merit」と呼ばれる高い得点を取得することが必要です。MBCI の会員資格申請者は全員、BCM を実践的に適用するための十分な経験と知識を保有しているかどうかを評価するために、評価にかけられます。

これらの条件のいずれかを満たすことができない MBCI の会員資格申請者には、該当すれば AMBCI が与えられます。



8. BCI 認定資格試験の受験要件

日本において BCI 認定資格試験を受験しようとする申請者は、以下を提出する必要があります。受験登録申請書を <http://thebci.jp> よりダウンロードし、必要事項を漏れなくご記入ください。記入済みの申請書原本（署名済み）のスキャンデータを BCI 日本支部事務局宛送付願います。

- ・ 連絡先詳細・審査における照会先 2 名の情報など、すべての情報を記入した受験登録申請書
- ・ BCM 実務経験および履歴書／職務経歴書

【送付先アドレス】

contact@thebci.jp
BCI 日本支部 事務局宛

受験登録申請書の提出時までに試験代金全額（税込 49,500 円）を以下の銀行口座にお支払いいただく必要があります。

【振込先】

（銀行名） 三菱東京 UFJ 銀行（0005）
（支店名） 麹町中央支店（015）
（口座番号） 普通預金 1410509
（口座名義） カ） アイティプロフェッショナル・グループ

- ※ BCI は試験事務局および収納代行を株式会社 IT プロフェッショナル・グループに委託しています。
- ※ 企業等で請求書の発行をご依頼される場合は、contact@thebci.jp 宛（標題は「BCI 試験請求書発行」をお願いします）にその旨連絡の上、請求書記載の期限までにお支払い願います。

受験登録申請書等必要書類とお振込みを確認後、ご連絡いただいたメールアドレスへ、「受付完了メール」をお送りします。

9. 試験会場

日本における試験会場は、適宜、<http://thebci.jp/>においてご案内させていただいています。

※英語での試験については、以下の URL にアクセスいただくことにより、安全で試験会場として相応しい環境をもった世界各地の試験会場で受験いただくことができます。

http://thebcicertificate.org/bci_examination.htm

10. 代理受験

BCI 認定資格試験の代理受験は認められません。受験登録がなされた受験者のみが BCI 認定資格試験を受験することができます。

11. 試験会場設備に関する特別な配慮

障害等その他特別な配慮が必要とされる方については、受験申請に先立ち、予め contact@thebci.jp 宛（標題は「BCI 試験特別配慮」でお願いします）に配慮が必要とされる事項等をご連絡ください。試験会場その他での対応可否等含め調査の上、その結果をご連絡いたします。

12. 受験票

受験資格の要件を満たし、適正な受験料を支払った受験者は、BCI 認定資格試験の登録申請を行うことができます。受験料の入金および必要な書類の受理が確認できましたら、受験票を発行いたしますので、試験当日必ず受験票を試験会場に持参してください。

13. 試験の予約

空席確認および試験の予約にあたっては、contact@thebci.jp 宛（標題は「BCI 認定資格試験希望」でお願いします）にご連絡ください。電子メールでのお申し込みいただいた時点で、BCI Japan よりメールで席の空き状況をご連絡します。空席があった場合には、お申込方法についてご案内いたします。申込書のご送付や受験料のお振込をされる際には、必ず事務局からの返信メール受信後をお願いいたします。

14. 試験予約の変更およびキャンセルに関するポリシー

予約を変更する場合は、予約した試験日の 22 暦日前までに contact@thebci.jp 宛（標題は「BCI 試験予約変更」または「BCI 試験キャンセル」でお願いします）に連絡する必要があります。受験者数が少ない場合、試験日を順延することがあります。

15. 欠席した場合の受験料

予約した日時に受験できない、上記変更またはキャンセルが間に合わなかった場合、または試験開始時間に 30 分以上遅れた場合は、欠席と見なされて受験料はいっさい返還されません。

このような場合には、予約の変更は認められず、再試験時にあらためて申請書を提出して試験代金全額を支払う必要があります。

16. 身分証明の要件

受験するには、写真付きの身分証明書を提示する必要があります。認められる証明書は、運転免許証、政府が発行する ID カード（写真があるもの）、パスポート、軍人身分証明書です。これら以外の証明書は認められません。身分証明書の名前は、試験センターに登録されている名前および受験票の名前と一致している必要があります。

17. 試験についての説明

BCI 認定資格試験の試験時間は 2 時間で、多岐選択回答形式の 120 問の設問から構成されています。試験に出題される概念や話題の分野は、BCI Subject Matter Experts (SMEs) による業務分析研究から取り上げられます。

18. 試験の概要

BCI 認定資格試験は、BCI の Good Practice Guidelines (GPG) に記載されたベストプラクティスに基づいて出題されます。これは、次の BCI Web サイトで参照できます。

<http://www.thebci.org/gpgdownloadpage.htm>

19. 教育および訓練

BCI では、BCM の知識を習得するため、自習方式で学べる E-Learning およびインストラクターによる 5 日間の教育訓練プログラムを用意しています（現時点では日本語未対応）。いずれのプログラムも BCM ライフサイクル、BCI Good Practice Guidelines (GPG) の 6 つの要件、BS25999 に準拠しています。これらのプログラムは、BCI 認定資格試験を受験する目的にのみ提供されるものではありません。試験問題の多くの部分は E-Learning プログラムにおいて網羅されていますが、現実の世界において習得する知識に代わるものではありません。

関連する情報および BCI が提供するプログラムの内容については以下を参照ください。

<http://www.thebcicertificate.org/index.html>

20. 受験の準備

準備には読書プログラムを組み込むことをお勧めします。最も重要な参考書は BCI の『Good Practice Guidelines』ですが、本書では、その他の参考書も提示します。読書による自己学習の他に、参加して知識を得るための補充教育もあります。これには、専門家の会議や、フォーラムあるいはワークショップへの参加、学術機関が提供するコースの受講などがあります。

参考書から大局的な知識を得た上で、カテゴリやユニットに細分された各論に戻って確認して、概念間や項目間の傾向と関連性の両方について書き留め、主要な点、考え方、結論を列挙します。

BCI は、本書に示す資料をすべて購入して読むことを勧めているものではありません。また、本書に示す資料以外にも、適切な内容の分野を網羅する情報源を受験者が持っていることもあります。

21. 受験 - 試験当日

試験の当日、受験者は試験開始時刻の 30 分以上前に受付を完了し着席するようにしてください。試験に要する時間は、オリエンテーションを含め着席から 2 時間 30 分を予定しています。

遅刻は認められません。試験会場での付き添いは認められません。

試験会場の受付時に、写真付きの身分証明書と、受験票を提示します。身分証明書は、常に携帯してください。何らかの理由で試験会場の席を離れる必要がある場合、試験会場の席に再度戻るためには身分証明書を提示する必要があります。

試験会場のスタッフは、試験開始の前に短いオリエンテーションを行います。

試験中は、試験会場のスタッフに許可を受けた場合以外は、席に着いたままでいてください。許可なく試験会場の席を離れることはできません。

試験会場のスタッフから別に指示ある場合を除き HB の鉛筆を持参し使用してください。メモ用紙、電卓などの試験室への持ち込みは許可されません。

試験問題の落丁等問題があった場合、何らかの理由で一時休止が必要な場合や、試験会場のスタッフの支援が必要とされる場合には、手を挙げて試験会場のスタッフに知らせてください。一時休止する場合、試験時間が追加されることはありません。

22. 質問、コメント、終了後のアンケート

試験を進めながら、個々の質問にコメントを付けることができます。この場合、手を挙げて試験会場のスタッフに知らせてください。試験会場のスタッフにてコメント記入用の用紙をお渡しします。(英語でコメントのこと)

コメントを提出した受験者が、提示した事項に対して直接返答を受けることはありません。しかし、提出された事項は必ず収集および検討して、調査と文書化のために活用されます。

23. 受験者の不正行為

以下に、容認できない受験者の不正行為とみなされる行為の例を示します。

- 何らかの方法で援助すること、または援助を受けること。
- 許可されていない参考資料や補助を使用すること。
- 誰かになりかわって受験すること。
- 受験の規則や試験会場スタッフの指示に従わないこと。
- 何らかの騒ぎを起こすこと。試験問題を試験室から持ち出すこと、または持ち出そうとすること。
- 許可なく試験会場の席を離れること。
- 携帯電話、ポケベルなどの電子通信機器を使用すること。

24. 試験後 - スコアレポート

試験終了後、2~4週間程度経過後に試験結果が通知されます。

試験結果には、受験者の名前、住所、試験のタイトル、合格（およびそのレベル）または不合格が記載されています。

不合格であった受験者のみに対し、どの分野に優れ、どの分野が不十分であったかをお知らせします。これは、将来試験を受けるにあたり向上すべき点を理解し補完するための学習に役立ちます。

BCI および SMT は、正解したかそうでないかなど、個々の試験問題について、受験者に何らの対応もいたしません。

25. 試験後 - BCI 認定プロフェッショナル会員資格のご案内

BCI は、実務経験に関する要件を充足した合格者に対し、BCI 認定プロフェッショナル会員資格への資格取得を勧めさせていただき書面を通知させていただきます。

26. 試験後 - 資格要件適合監査

AMBCI の資格取得を希望して BCI 認定資格試験に合格した場合、BCI のポリシーとして、資格要件の適合性を確認するため全申請者の 5~10% に対して、監査を実施します。監査には、雇用主および教育機関に照会を行うことも含まれます。

SBCI または MBCI の資格取得を希望して BCI 認定資格試験に合格した場合、レファレンスを取らせていただくとともに、学位を確認させていただきます。MBCI の申請者は評定のため、さらに別途書面を提出いただく必要があります。

27. BCI 認定資格の意味するもの

BCI 認定資格試験に合格することは、経験または能力に対してライセンスまたは保証を与えられることではありません。これは、予め定められた知識の理解度を明確にする一連の認識であり、BCI 認定プロフェッショナル会員資格の取得申請を可能にするものです。

CBCI に合格しても、BCI 認定プロフェッショナル会員にならないことを決定したものには、the designatory CBCI の称号を使用することができ、年会費をお支払いいただくことにより登録がなされます。当該 CBCI 取得者は 3 年後に再試験を受験しなければなりません。

CBCI に合格することは、BCI 認定プロフェッショナル会員資格を取得するための必要とされる要件の一つです。

BCI は、BCM の分野における雇用のための要件を定義する意図はありません。BCI 認定資格の取得は、事業継続マネジメントの実践に関する学位、法的な免許、権限またはライセンスを授与するものではありません。

28. 推奨合格スコアの決定

合格スコアは、Angoff 法による基準設定の調査研究を実施して決定されたものです。このプロセスは認定された Subject Matter Expert (SME) によって行われます。各エキスパートは、試験の合格に必要な能力のレベルに基づいて各設問を評価するように求められます。試験のパフォーマンスデータとともに適切な分析が行われて、最終的な合格スコアが決定されます。将来の試験では、試験の形態が変わっても一定の合格基準を維持できるように、統計的な標準化を行う予定です。

BCI の認定資格試験は 120 問から構成され、そのうち 100 問のみが採点の対象となります。標準的な設定プロセスを通して、BCI の SME が個々の設問に対するレートおよびウエイト付けを行います。評価された設問に対する SME のウェイトの平均が試験合格のための合格ラインとなります。試験のセキュリティを確保するため、BCI はいくつかのバージョンからなる試験問題を用意しています。それぞれは異なる設問から構成されているため、合格ラインも異なります。採点レポートを標準化するため、BCI は正答数を一次変換して 0 点から 500 点の評価点をつけます。BCI は 380 点を合格ラインに設定しています。「Pass with Merit」で受験される場合には、425 点以上を獲得しなければなりません。

29. 再受験に関するポリシー

不合格になった受験者は、3 ヶ月間再受験は認められません。

30. スコアの無効

まれに、試験スコアを無効にするような状況が発生することがあります。BCI は、BCI Membership Council の意向により、正当な理由によってスコアの有効性が疑われる場合には、スコアの取り消しまたは差し止めをする権利を留保します。

理由には、受験者が確かな身分証明書を持っていない場合、許可されていないメモ、本、書類を使用した場合、援助したことまたは援助されたことが疑われる場合、試験室から試験資料またはメモを持ち出した場合、受験の際の指示に従わない場合などがあります。このような状況では、受験者はスコアの調査に協力するように求められます。個々の受験者の不正行為ではなく、複数の受験者に影響するような試験の不正行為が発生することもあります。このような問題には、運営上のミス、設備や資料の欠陥、試験内容への不正アクセス、試験内容の許可されていない共同使用、その他の試験運営上の混乱（自然災害やその他の非常事態）などがあり、またこれらに限りません。

複数人に影響する試験の不正があった場合、SMT は BCI に情報を提出するために調査を実施します。その情報に基づいて、試験の採点をしないか、試験スコアを取り消すように、BCI が SMT に指示することがあります。

適切な場合には、BCI は SMT と調整して、影響を受けた受験者ができるだけ早く、無償で再受験するための機会を設けます。

影響を受けた受験者には、取り消しの理由と再受験のオプションを通知します。複数人に影響する試験の不正については、抗議手順は適用されません。

31. BCI 認定資格の取り消し

BCI は、BCI 認定資格を取得しようとした者が次のいずれかに該当することが判明した場合には、BCI 認定資格を取り消す権利を有します。

- 申請手続きで、意図的な偽りによる不当な記述があった場合。
- 試験内容を漏えいした場合。
- 不正な代理行為があった場合（自身を詐称するか、誰かになりかわって試験を受けようとした場合）。
- 認定資格の更新手続きで虚偽があった場合。
- 認定試験で不正行為があった場合。

32. 倫理規約

BCI 認定資格を取得しようとするものはすべて、Business Continuity Institute の倫理規約に従うことに同意するものとします。倫理規約は、次の Web サイトで参照できます。

<http://www.thebci.org/codeofethics.htm>

33. 試験への抗議に関するポリシー

BCI のポリシーにより、受験者が電子採点に誤りがあったと考える場合には、各受験者はスコアの誤りを申し立てることができるものとします。

受験者がスコアの誤りを申し立てる場合は、SMT に対して書面で「手作業による検証 (hand verification)」を要求します。受験者はグレードの通知を受け取った日から 30 日以内に申し立てを行う必要があります。SMT は手動で受験者の回答と正解を照合して、スコアの計算を調査します。この申し立てのための料金は通常 25 ドル (US ドル) で、申し立てを行う際に SMT に支払う必要があります。料金を支払わない場合、申し立ては処理されません。

再採点または手作業による採点が受け付けられると、その受験者の元の回答シートが試験ファイルから取り出されます。まず、最初の採点に影響した可能性のあるマーキングの消しあとまたは下書きが目視で確認されます。次に、コンピュータで再採点されます。再採点結果と最初に受験者に報告したスコアを比較して、最初のスコアが正確にダウンロードされ報告されているかどうかを検証します。そのあとで、受験者の回答シートと印刷した正解のコピーとを比較します。これは 2 名の担当者によって実施し、正解の印刷されたコピーは使用後に MIS 部門に戻して廃棄します。

再採点の結果が「Pass」または「Pass with Merit」である場合、25 ドル (US ドル) は受験者に返金されます。

それでも不合格と判定された受験者が SMT からの回答に満足できない場合、受験者は申し立てる事項とその論理的な根拠を具体的に示した文書を提出できます。これを SMT に提出すると、最終決定のために BCI Membership Council に転送されます。

受験を断られた場合や、抗議するその他の根拠がある場合には、スコア通知の日付から 7 日以内に SMT に対して抗議の論理的な根拠の詳細を包括的に記述した文書を提出してください。この抗議のための料金は 25 ドル (US ドル) で、抗議を行う際に SMT に支払う必要があります。料金を支払わない場合、抗議は処理されません。BCI Membership Council は抗議書を調査して、90 日以内にその決定を受験者に通知します。

BCI Membership Council による決定は最終的な決定になります。受験者が試験への参加を不当に拒否されたと判断された場合、受験者はただちに追加料金なしで受験申請を行うことが許可され、抗議のために支払った 25 ドル (US ドル) は返金されます。

34. 参考書リスト

BCI 認定資格を取得するにあたり以下のリストに記載された書籍は有益と考えられます。しかしながら、BCI の認定資格試験に対応するものとしては、BCI の Good Practice Guideline が重要なテキストとなります。

BCI では、これらの書籍をすべて読む必要があるとは示唆していません。また、これらの書籍で試験に完全に対応できると示唆していません。これらの書籍は、次に示すリンクをクリックすることで BCI Bookstore から購入できるものがあります。

PRINCIPLES AND PRACTICE OF BUSINESS CONTINUITY: TOOLS AND
TECHNIQUES By Jim Burtles, KLJ, MMLJ, FBCI
www.rothstein.com/bcibooks/bc800.htm

A RISK MANAGEMENT APPROACH TO BUSINESS CONTINUITY:
ALIGNING BUSINESS CONTINUITY WITH CORPORATE GOVERNANCE By
Julia Graham, FCII, FBCI MIRM and David Kaye, FCII FBCI MIRM FRSA Philip Jan
Rothstein, FBCI, Editor
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc778.htm>

BUSINESS CONTINUITY: BEST PRACTICES WORLDCLASS BUSINESS
CONTINUITY MANAGEMENT 2nd EDITION by Andrew Hiles, FBCI
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc770.htm>

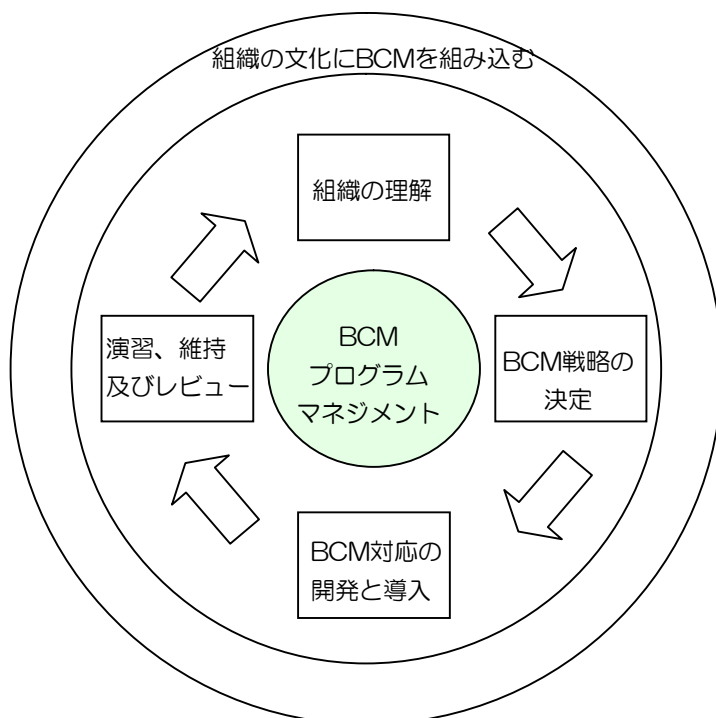
AUDITING BUSINESS CONTINUITY: GLOBAL BEST PRACTICES By Rolf von
Roessing
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc601.htm>

ENTERPRISE RISK ASSESSMENT AND BUSINESS IMPACT ANALYSIS BEST
PRACTICES by Andrew N. Hiles
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc600.htm>

BUSINESS CONTINUITY PLANNING METHODOLOGY by Akhtar Syed, Ph.D.,
CISSP and Afsar Syed, BMath., ABCP
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc730.htm>

PRACTICAL GUIDE TO BUSINESS CONTINUITY ASSURANCE by Andrew
McCrackan
<http://www.rothstein.com/bcibooks/bc738.htm>

35. Business Continuity Management Life Cycle と重要なスキル



BCI の認定する CBCI 認定資格を取得しようとするものは、Business Continuity Management Life Cycle のあらゆる局面を理解していることを示す必要があります。

BCM Life Cycle には 6 つの主要な局面があります。以降では、Life Cycle モデルにおける認定資格取得を行おうとする個々人の技量を証明するために必要とされる個人のスキルおよび経験を示します。

BCM ポリシーおよびプログラムマネジメント — 次の知識と経験を示す必要があります。

- 事業継続マネジメントプロセスのための要件を確立すること。
これには、レジリエンシーにおける戦略、復旧の目標、事業継続およびインシデントマネジメントの計画と、当該プロセスに対する経営者の支持を得ることが含まれます。
- 統合リスクマネジメントのイニシアティブと協調した、またはその主構成要素の一つとしての、機能またはプロセスを体系として組織し管理すること。
- インシデント発生中における、メディアを含む外部ステークホルダーとのコミュニケーションに関する計画を作成、調整、評価し、演習すること。

組織の理解 — 次の知識と経験を示す必要があります。

- 組織に影響を及ぼす可能性のある中断や災害のシナリオから発生する事業への影響を明確にし、このために必要とされる定量的および定性的な分析手法の開発を含んだ事業インパクト分析を行うこと。
- 重要な機能、当該機能の復旧優先順位、相互依存関係を明確にして、目標復旧時間を設定でき

るようにすることを含んだ事業インパクト分析を行うこと。

- 中断や災害の発生によって、組織やその施設に悪影響を及ぼす可能性のある事象や周囲の環境を判定し、このような事象が発生した場合の損失を理解することを含んだリスク評価およびコントロールを行うこと。
- 潜在的な損害の影響を防止または最小化するために必要とされる制御手法を確立することを含んだリスク評価およびコントロールを行うこと。
- リスク軽減対策のための適切な投資を判断するための費用対効果分析を含んだリスク評価およびコントロールを行うこと。

BCM 戦略の決定 — 次の知識と経験を示す必要があります。

- 目標復旧時間および目標復旧時点の範囲内で、事業を継続するために、代替となる事業復旧の運用戦略を選択して決定、指導し、一方で組織の重要な機能を維持すること。
- 目標復旧時間および目標復旧時点の範囲内で、事業を継続するための解決策を提供し、一方で組織の重要な機能を維持すること。
- インシデント発生中の内部ステークホルダーとのコミュニケーションに対する計画を開発、調整、評価し演習すること。
- 従業員とその家族の精神的ダメージに対してカウンセリングを提供すること。

BCM 対応の開発と導入 — 次の知識と経験を示す必要があります。

- インシデントまたは事象の後に発生する状況に対応し安定化するための緊急対応手順を開発し導入すること。
- 緊急時に指揮の中心となる緊急対応センターを設置し管理すること。
- 緊急事態に対処した実務的な経験があること。
- 目標復旧時間および目標復旧時点の範囲内で事業を継続するための、事業継続およびインシデントマネジメント計画を企画、開発、導入すること。

演習、維持およびレビュー — 次の知識と経験を示す必要があります。

- 演習の事前計画と調整を行い、演習結果を評価し文書化すること。
- 組織戦略において定めた方向に従い、継続能力および事業継続計画（Business Continuity Plan）に関する文書を更新し維持するためのプロセスを確定すること。
- 計画を適切な規格と比較し、結果を明確かつ簡潔な報告にまとめることで計画の有効性を評価すること。
- 適用される法律または規制への遵守を保持しながら、外部機関とともにインシデントの調整、継続、ならびに復旧活動を行うための適切な手順とポリシーを確立すること。
- 外部機関に対応し実務的な経験。

組織の文化に BCM を組み込む — 次の知識と経験を示す必要があります。

- 事業継続マネジメントプログラムまたはプロセスと、これを支える活動を開発し実施するために必要とされる社内への意識付けと認識の維持、ならびに、このために必要とされるスキルを向上させるためのプログラムを用意すること。

（以下余白）